「農」探訪…（のうたんぼう）

多摩市初発インキュベーション農園誕生!!

連光寺地区に、多摩市初のインキュベーション農園が誕生しました！ 2棟のうち1棟の管理・運営を、市内農業者が担います。本事業について紹介します。

●インキュベーション農園整備事業とは…？

インキュベーション農園は、生産緑地の買取申出などによる「農地減少への対応」と「高収益施設導入への支援」として、①農地の保全②ICT（情報通信技術）等を活用した効率的な施設栽培への習熟を目的とした施設です。

▲インキュベーション農園施設

都が整備した東京型統合環境制御生産システム施設を、関心のある農業者へ最大3年間レンタルし、生産緑地の保全・活用モデルを区市に示すとともに、栽培技術の習得、収益性の高い施設栽培による経営安定化、積極的な収益向上を基に自立営農を目指す営農支援事業です。

●特徴的な技術「東京フューチャーアグリシステム」

東京フューチャーアグリシステムは、都内のみならず全国に数多く存在する大規模生産方式への対応が難しい小規模農地等を活用し、生産性の大幅な向上による地域農業の革新を目指すため、東京都農林水産総合研究センターで開発されたものです。大規模な敷地用地を確保せずとも高い生産性を実現しながらコスト抑制と環境への配慮を念頭に開発されたシステムです。一般的に施設規模の大小を問わず必要な機材は変わらないことから、初期投資のスケールメリットは期待できないものの、特色として、次に挙げる3つの技術があります。

⑴ハウス構造

ハウス構造は主骨材を太くして骨材数を50～60％削減し、採光性を向上（光合成促進、冬場の温度確保）。骨材をパーツ化することで工期短縮（人工賃圧縮）を実現、ハウスの被覆は二重被覆空気膜方式構造（二重に展張したフィルム間に空気を入れて膨らませる方式）を採用し、高耐久・機能性フィルムによる張替えコスト削減のほか、光合成促進資材の劣化を抑制しています。

▲タブレットによる各種制御を実現

⑵養液栽培システム

開発された東京型養液栽培システムの特徴は、廃液が出ない閉鎖型（極所循環）システムで、シンプルな給液管理のため、低価格で自家施工が可能です。培地は繰り返し数年間再利用が可能なヤシガラを使用しています。

⑶先進的環境制御技術

産業用コンピュータや汎用通信機器を用いて、高機能で堅牢、低価格でソフトウェアの開発が比較的容易（インフラ整備にインターネットや携帯回線等の普及品が活用可能）であり、きめ細かな環境制御を可能としています。

種々の計測センサー（天候、内外気温、湿度、CO_2濃度、日照等）で得られたデータを統合的に判断、各機器（ハウス被覆の開閉、換気扇、暖房機、ヒートポンプCO_2発生装置等）を一括制御し、植物の光合成の最大化など、植物の生育に最適な環境をつくり出し、収穫量の増大が期待できます。また遠隔地のパソコン、スマートフォンなどから、ハウス内の生育状況の確認ができるほか、各制御はもとより、設定値やパラメータなどプログラムの変更も遠隔操作で行うことができます。

▲パプリカ定植時のようす

これら先進的なシステムで、農園生産者は、必要最低限の管理で収穫等の作業に専念でき、栽培に関わる人件費を削減しながら計画性のある安定した収穫と出荷により、見通しの明るい高収益な農業経営を目指すことができます。

多摩市の農業者として、この施設の1棟を管理する者として、まず手始めにパプリカ栽培に取り組んでおり、その育成状況を注意深く見守っているところです。

（農業委員　増田 保治）

Ponte（ポンテ）と子ども食堂

多摩市では、市特産の野菜を含めて様々な種類の作物が栽培されています。採れたての新鮮な野菜は、「いきいき市」「グリーンショップ多摩」「ポンテ」「学校給食」「直売」での販売のほか、「子ども食堂」などへ提供され、地産地消されています。今回は「ポンテ」と「子ども食堂」を紹介します。

●アンテナショップ「ポンテ」

（Ponteとは、イタリア語で「橋・つなぐもの」を意味します）

多摩市と長野県富士見町との共同アンテナショップであるポンテ（永山1-4 グリナード永山1F）は、その名のとおり、互いの自治体をつなぐ架け橋であり、それぞれの多くの特産品・野菜・加工品を販売しています。

地元多摩市の採れたて新鮮野菜を、生産者である農家が名前を入れて直接納入しており、これらは多くの常連さんに喜ばれています。まさに生産者と消費者とが直接つながっている様子がうかがえます。新鮮で安心な農作物を手頃な値段で楽しむことができ、時にはスーパーでも手に入らない珍しい野菜も販売しています。多摩市農産物応援サイト「アグリアグリ」では、市内の農産物・直売所・農家などが紹介されています（「アグリアグリ 多摩」で検索してください）ので、ぜひ、ご覧ください。

●子ども食堂「諏訪ハーモニークラブ」

多摩市には、市民のボランティア活動に支えられて、10数か所の「子ども食堂」が運営されています（現在休止中のところもあります）。そこでは子どもだけでなく、地域の誰もが参加して、食事の提供やお弁当配布のほか、学習支援や話し合いなどを行う「地域の居場所」となっています。地域の人々からも、お米や野菜、食材等が提供されています。

▲お弁当準備中の諏訪ハーモニークラブ

今回は、その施設のひとつ、「諏訪ハーモニークラブ」を訪ねました。火～金曜日の昼間はカフェとして営業し、火曜日の午後2時からは「諏訪ハーモニー塾」、午後4時からは、多摩市若者会議のメンバーにより学習支援を行っています。午後6時からは「子ども・誰でも食堂」が開かれています（現在はコロナ禍のため、お弁当を配布中）。時間になると、三々五々学校から子どもたちが集まり、スタッフから「お帰り」という声が掛かります。

責任者の櫻田さん、スタッフの方々は、「地域の多くの人々の善意とご理解・ご協力により運営されています。農家さんからも、お米や新鮮な季節の野菜などの食材の提供を受けられて大変助かっています。産地が見える食材を使って、健康を考え、地域の人々と子どもを巻き込んだ居場所を作っていきたい」と話していました。

多摩市の農家に対しても、食材の販売だけでなく、こうした活動を通じて、人々のつながりを築く手助けが求められていると感じます。

ご興味がある方は、お近くの「子ども食堂」に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

（農業委員　大松 誠二）

脱コロナの願いをこめて…

新嘗祭 野菜の宝船

▲野菜でつくられた見事な宝船

七五三で賑わう令和3年11月23日の明治神宮で新嘗祭（にいなめさい）が行われました。収穫物を神様にお供えして感謝を捧げるお祭りです。10基ほどの野菜の宝船や全国各地から奉納された農林水産物が展示されており、本殿では巫女さんによる神楽もあり、華やいだ雰囲気でした。

多摩市、日野市、稲城市の農家さんは、「JA東京みなみ」の青壮年部メンバーで、毎年宝船を制作しています。野菜の宝船は江戸時代に始まったとの説があり、今日では初荷のご祝儀として生産者が宝船を作り出荷するようになったとのことです。

宝船は、白菜の土台に赤カブや聖護院大根、ブロッコリ、キャベツ等々がならび、ネギで出来た帆が目を引きます。船の周りには色とりどりの花がとてもカラフル。今年の冬瓜には「脱コロナ」の文字が…。一日も早く日常が戻るよう、みんなの願いが叶いますように…。

（農業委員　武内 好惠）

農業者年金

■農業者年金はメリットいっぱいの制度です！ぜひご加入ください！

農業者年金は、積立方式で加入者、受給者数に左右されにくい公的年金です。

貯金をする感覚で加入し、メリットを受けましょう。

・対象は、国民年金の第1号被保険者で年間60日以上農業に従事されている60歳未満の方。

・積立方式で少子高齢化の時代に強い制度です。

・月額2万円～6万7千円の間で、ご自身の状況に合わせて、保険料を自由に選択できます。

・80歳までの保証が付いた終身年金です。

・保険料は全額が社会保険料控除の対象で、所得税、住民税の節税になります。

全国農業新聞

■全国農業新聞をご購読ください！

農業委員会系統組織紙として、農政問題や制度・税制・技術経営などを取り扱う専門の週刊誌（毎週金曜日発行）です！

農業の様々なヒントから農地制度に関することまで、豊富な内容が掲載されています。

・年額8千400円（月額700円）

【年金・新聞の申込・問合せ】
農業委員会事務局
☎3338-6848